



## 社労士のつぶやき(80) 受難の運輸業界

ロシアのプーチン政権がウクライナに軍事侵攻したため、日本を含め世界各国が経済制裁を断行しました。原油や天然ガスの国際価格が急上昇。原油は1バレル139ドルまで上がりました。3月半ばに96ドルまで戻ったのもつかの間、27日にサウジアラビアの石油施設が武装組織に襲撃されて大炎上し、再び120ドルまで上昇しました。これらの戦争は、主に軽油や天然ガスを燃料とするトラックやタクシーの業界を直撃しています。

そしてコロナ禍。第6波では、感染者のみならず濃厚接触者まで自宅待機しなければなりません。そのためオフィスでは在宅勤務などで空席が目立っています。このような「巣ごもり状態」で需要が高まっている物流なのに、感染や濃厚接触で運転手を確保できないのです。新聞では、燃料費や人件費を運賃に転嫁できなければ仕事を引き受けないという運送会社の「悲鳴」が報じられています。加えて東北地方の震災はJR貨物の輸送網を崩壊させ、トラックの需要が高まっている・・・「好景気」と言うよりは一時的な現象であるため、今ある人手と車輛で賄ざるを得ないのです。

そんなさ中の3月16日、厚労省労働政策審議会の作業部会で、運輸業に関わる大きな方向性が決められました。バスとタクシーの運転手の過重労働防止対策として、終業から次の始業までの「休憩時間」を、現行の8時間から9時間に延長するという「勤務間インターバル」が話し合われたのです。そして労働時間と休憩時間を合わせた「拘束時間」も議論され、現行の1日最大16時間から15時間に引き下げることが決められました。厚労省は当初、勤務間インターバルについて国際労働機関(ILO)基準の11時間を提案していましたが、業界側が「交通需要に応えられない」と反発し、9時間に落ち着いたのです。施行は2年後の24年4月。違反した事業者は行政指導を受けます。今回の作業部会はバスとタクシーでしたが、いずれトラック業界も同様の措置が執られると見込まれています。加えて2年後の同時期、「働き方改革」の一環で自動車運転の業務も残業規制(当面は年間960時間)が適用されます。運輸業界はこれから受難の時代を迎えるのです。

こんなに運輸業の受難が続くと、まん防が解除され徐々に外食しても、「品薄で・・・」と楽しみにしていた料理を諦めてタクシーも捉まらなくなり、戦時中のように自宅でサツマイモを植えることになりかねないなあ。

社労士事務所アジュール 高 龍弘

## 燃料カードの価格表【2022年4月分】

### AMSカード ※共通利用可能

油種	ENEOS・Shell・COSMO
レギュラー	158.0円
ハイオク	168.0円
軽油	139.0円

【価格は税抜】

### ENEOSビジネスカード

油種	ENEOS
レギュラー	158.5円
ハイオク	168.5円
軽油	134.5円

【価格は税抜】

### 全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行

油種	COSMO	ENEOS	宇佐美
レギュラー	157.6～159.6円	157.7～159.7円	156.3～158.3円
ハイオク	167.6～169.6円	167.7～169.7円	166.3～168.3円
軽油	130.8～132.8円	135.2～137.2円	133.4～135.4円

【価格は税抜】

### 全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行

油種	ENEOSウイング	FLEX&TRUST カード(Shell)	TRUST&FLEX カード(出光)	エネクスフリート
レギュラー	155.2～157.2円	157.8～159.8円	158.4～160.4円	153.6～155.6円
ハイオク	165.2～167.2円	167.8～169.8円	168.4～170.4円	163.6～165.6円
軽油	129.1～131.1円	135.3～137.3円	130.6～132.6円	130.6～132.6円

【価格は税抜】